

市内茶生産者が「農林水産大臣賞」を受賞！

所沢市内在住の茶生産者の小高^{やすよし}保喜さん（神米金）と野澤拓也さん（南永井）のお二人が、農林水産大臣賞を受賞しました。この賞は、農林水産祭*に参加した各品評会で優秀な成績を収めたことに対して贈られるものです。

小高さんは、7月15日に農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所（静岡県島田市）で開催された「第16回全国手もみ茶品評会」で手もみ茶製法が高く評価され、1等を受賞しました。

野澤さんは、9月3日に埼玉県農林総合研究センター茶業特産研究所（埼玉県入間市）で開催された「彩の国さいたま第30回FGTC サヤマ - 2008」に出品した普通煎茶が好成績を収め、1等となりました。

今回の農林水産大臣賞受賞は、お二人の栄誉であると同時に、全国に所沢市の茶業の技能の高さや品質の良さを示しました。



小高保喜さん



野澤拓也さん

*農林水産祭…国民の農林水産業及び農山漁村に対する認識と理解を深め、農林水産業者の技術改善及び経営発展意欲の高揚を図るための国民的祭典です。



「菜の花プロジェクト」をご存知ですか？—地域資源の循環

「菜の花プロジェクト」とは、菜の花を利用した資源循環型地域づくりの取り組みです。菜の花を植え、なたね油を絞り、それを食用利用。廃食油は回収し石けんや燃料などにリサイクルします。

所沢市でも松郷でこのプロジェクトが進められているほか、今年度は亀ヶ谷においても、地元農家や市民らで構成される亀ヶ谷地区農地・水・環境保全協議会によって、農地の良好な保全と質的向上、環境保全を図る取り組みの一端として菜の花が植えられました。

種まきの様子



<環境にやさしく> 使用済み農業資材の適正処理を進めています

所沢市内の農業関係者を中心とした所沢市農業資材等適正処理推進協議会によって、農業生産にともない生じた廃プラスチックや肥料袋などの農業資材の回収・リサイクル処理が行われています。これは、市の条例などで規制されている野焼き行為をなくし、環境にやさしい農業を行うことで、安全・安心な農産物を生産することを目的に市内の農業者が一丸となって行っている事業です。



平成10年度より開始された当事業は、平成19年度末までに延べ7,700人の農業者が参加し、処理重量は、約640トンにのぼります。回収された農業資材等は、処理過程で塩酸と炭化水素に分離されます。塩酸は鉄鋼・化学工業などで100%有効利用され、炭化水素は助燃剤として再利用されています。

都市化が進み、環境問題への関心が高まるなかで持続的に農業を行うために、これからも環境に配慮した農業を進めていきます。